

## 平成25年度 第2回愛知県生涯学習審議会社会教育分科会会議録

### 1 開催期日

平成26年2月13日（木） 午前11時15分から正午まで

### 2 場 所

愛知県議会議事堂ラウンジ

### 3 出席した委員の氏名 7名

恩田やす恵、加来正晴、鈴木照美、広沢憲治、松田武雄（分科会長）、  
山田久子、和田典之

### 4 欠席した委員の氏名 2名

足立 誠、志村貴子

### 5 会議に付した事項

#### ○ 議事

教育委員会が社会教育において対応すべき人材育成について

#### ○ 報告

(1) 平成26年度社会教育関係事業（案）について

(2) 平成25年度社会教育関係団体補助金交付事業の結果について

### 6 議事の経過

#### ○ 会議録署名人の指名

分科会長から鈴木委員と広沢委員を署名人に指名

#### ○ 教育委員会が社会教育において対応すべき人材育成について

事務局から資料1により説明

これに対する各委員からの意見等は別紙のとおり

#### ○ 平成26年度社会教育関係事業（案）について

事務局から資料2により説明

#### ○ 平成25年度社会教育関係団体補助金交付事業の結果について

事務局から資料3（冊子につき添付略）により説明

<教育委員会が社会教育において対応すべき人材育成について>

- 市町村レベルでは主体間同士の連携・つながりは結構できてきている。むしろ心配なのは、各団体の会員・構成員が集まらないことだ。高齢化して会員が抜けていくが、新しい会員がなかなか入らない。

今後、社会貢献の担い手のターゲットとしては、高齢者と子育てを終えた世代になると思う。しかし、高齢者は増えているのに、なかなか担い手になっていかない。老人会に入る人が減っている。退職後は、自分でゆっくりのんびりやりたいとか、老人会でいろいろ言われるのはいやだとかいう理由だ。やりがい・生きがいなどを訴えても、活動に意識が向かない。企業は、退職したら地域貢献や社会貢献をしっかりとすることを後押ししてもらいたい。

また、公民館などに掲示されている「家庭の日」のポスターに、家族構成が描かれているが、祖父母が出てこない。祖父母と一緒に暮らしている子は、いろいろな意味で落ち着いており、安定している。核家族化の中では、意図的に高齢者と子どもが触れ合う場を作っていかなければならない。その意味でも、高齢者をいかに取り込んでいくかを考える必要がある。

- 教員OBをいろいろな所でもっと活用する道はないだろうか。教員OBは、60まで子どもたちと一緒に元気にやってきているので、割とエネルギーを持っているし、生きがい・やりがいについても反応しやすいと思う。このようなターゲットが1つあると、コーディネーターなどにも活用していけるのではないかな。

- 実際、教員OBは活躍しているのか。

→ 学校支援本部事業において、教員OBも活動しており、大変成果を上げている。活躍できる場をたくさん準備していくことが大切だと思っている。

- 土日の走ろう会や駅伝大会の時に、婦人会主体でぜんざいを作っているが、その場に出てきた同じ地区に住む行政職員は、代休をいつとろうかという話をしている。他の地区に住む人ではないので、行政であってもボランティア精神を持ってもらいたい。何をすることについても婦人会は全部ボランティア精神が基本になっている。ある程度の年齢になったら、ボランティアという考えも多少持ってもらいたい。

→ 国が始めようとしている、土曜日に英語、数学、伝統芸能などを教える事業について、文部科学省は積極的に職員が出ていくよう言っている。おそらく、仕事としてではなくて、ボランティアとして参加していくという意味だと思う。

行政職員の中にも、地域ボランティア活動に参加する中で自らも学んでいきたい、と考える者もいることを御理解いただきたい。

○ 学校支援地域本部事業は今後も拡大していくのか。

→ 必ずしも数が増えてきている状況ではない。学校支援地域本部は尾張に偏在している。三河では、地域が学校を支えるということが既に根付いており、事業を新たに立ち上げなくても、地域の民生委員やPTA役員のOBが学校を支えるのは当然のことだという考え方があるため、なかなか拡大していかないということである。また、予算の3分の1が市町村、3分の1が国、3分の1が県という制約の中で、県予算が拡大しないことから、必ずしも拡大方向にはない。地域が学校を支え、学校も地域に開放していくという1つの形として、大変内容の濃い事業であるので、最大限の予算を確保したい。

○ コミュニティスクールは、かなり広い権限があるということで抵抗感があり、なかなか拡大しない。一方、学校支援地域本部は、かなりこれから増えていくのではないかと思う。地域からは設置したらどうだという意見があり、模索している所はある。予算を伴うので難しいが、いろいろな人が活動の場として関わり合えるので、拡大してもらえるとよい。

○ すばらしい事業であると思っているので、問題は予算だけだと思っているので、制約を受けないように今後も努力はしていく心づもりをしている。